

所 報

第60号 2009年3月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 大 城 浩

〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地

電話 098-933-7555 FAX. 098-933-3233

URL <http://www.edu-c.open.ed.jp/>

平成 20 年度 後期・一年長期研修成果報告会

期 日:平成 21 年 3 月 11 日(水)～13 日(金)

会 場:本館講義室, IT 教育棟大講義室
産業教育棟情報応用室

発表者:後期長期研修員 32 人

1 年長期研修員 28 人 計 60 人

平成 20 年度後期・1 年長期研修成果報告会
が上記の日程で開催され, 関係各位の激励を受
けた研修員がこれまでの研修成果を報告しま
した。

研修員は, 今日的教育課題や学校の課題解決
に向けた各自の研修テーマを設定し, 理論研究
に基づく指導方法の工夫・改善や教材等の開発
を行った研究内容を発表し, どの会場において
も活発な質疑が行われました。

「今日的教育課題を解決, 改善していくため
に, 各自の研修教科・領域に関する理論及び実
践力の向上と文化的教養の深化を図り, 使命感
を持った積極的な人材を育成し学校教育の活性
化と発展に資する。」ことを目的に位置づけら
れている本センターの長期研修は, 4 月からの

1 年間と 10 月から 3 月までの 6 ヶ月間で, 「研
修計画検討会」や「中間検討会」, そして「研
修成果報告書検討会」を経て完成しました。

今回の研究成果が単なる発表で終わるので
はなく, 学校現場に持ち帰り多くの先生方と共
有し, 児童生徒に還元していただきたいと思います。
研修員の皆さんのご活躍を祈念しております。



所長あいさつ

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ も く じ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

● 平成 20 年度後期・長期研修成果報告会	－ 1 －
● 平成 20 年度総合教育センター研究発表会	－ 2 －
● 九州地区教育研究所連盟第 59 回研究発表大会沖縄大会	－ 2 －
● 全国適応指導教室連絡協議会第 14 回四国・九州地域会議「沖縄大会」	－ 3 －
● 後期特別講演 「人づくりの種をまく 元気 感動 夢舞台」	－ 3 －
● 県立 10 年経験者研修 ～ライフ・ステージに応じた研修へ～	－ 4 －
● ICT を活用した小学校外国語活動講座	－ 5 －
● 沖縄グローバル エデュケーション ネットワーク システム	－ 5 －
● 障害児来所教育相談事業	－ 6 －
● 産業技術先端機器の紹介	－ 7 －
● 研修を振り返って	－ 8 －

平成 20 年度 総合教育センター研究発表会

沖縄県立総合教育センター調査研究事業は、研究（指導）主事が、本県教育の今日の課題に取り組み、学校教育の充実と課題解決に資することを目的に、プロジェクト研究（所内共同研究）、班内共同研究、宮古・八重山地区での移動教育センター共同研究、個人研究の四本柱で取り組んでまいりました。平成 20 年度は「『生きる力』をはぐくむ学校教育の創造」を統一テーマに、各研究において具体的なテーマを設定し研究が進められました。

平成 20 年度の研究発表会は、2 月 13 日（金）に多目的研修棟等において実施いたしました。内容はプロジェクト研究（1 本）、班内共同研究（5 本）、移動教育センター共同研究（2 本）、個人研究（1 本）の合わせて 10 本の研究成果を発表いたしました。発表会には、教育関係者だけでなく一般の方々の参加もあり、発表後の質疑では活発な意見交換が行われました。また、

多くの参加者のアンケートから、学校での指導に活用出来る内容であったとの評価を得ることができました。

なお、研究内容の詳細につきましては、県立総合教育センターホームページ（教育情報共有システム <http://www.open.ed.jp>）をご覧ください。



大城所長のあいさつ

九州地区教育研究所連盟第 59 回研究発表大会沖縄大会

九州地区教育研究所連盟は、九州地区の公立教育研究所及びこれに準ずる研究機関をもって組織され、現在 43 機関が加盟しています。

今大会は、九州地区の教育研究所相互の連携を密にし、教育研究調査の充実促進を図ることを目的に毎年九州各県持ち回りで開催されています。

本大会は、平成 13 年以来 8 年ぶりの本県での開催です。沖縄大会は、沖縄県立総合教育センターが事務局となって、平成 21 年 1 月 22 日、23 日の両日、沖縄県男女共同参画センター「ていりる」で開催されました。1 日目の全体会では、国立教育政策研究所研究企画開発部総括研究官千々布敏弥氏による講演、その後、二日間にわたり、「国語」・「英語」・「芸術」・「教育経営」・「生徒指導・教育相談」・「総合的な学習の時間」の 6 部会に分かれ、計 24 本の研究発表がおこなわれました。

本センターからは、上江洲隆研究主事の「コミュニケーション能力をはぐくむ小学校英語活動」、横田正指導主事の「教員の実践的な ICT 活用指導力の向上を図る方策」、大嶺悟研究主事の「プ

ロジェクト研究における学校支援を目指した取組」、宮城康人研究主事の「探究を深め、キャリア発達を促す『総合的な学習の時間』のあり方」が、それぞれの部会で発表をおこないました。

小・中学校学習指導要領の改訂に続き、高等学校・特別支援学校の学習指導要領の改訂が発表された年に、沖縄の地から新たな情報を発信できたことは、沖縄県立総合教育センターにとっても意義のある大会でした。



分科会の様子

全国適応指導教室連絡協議会第 14 回四国・九州地域会議「沖縄大会」

平成 20 年 10 月 23 日（木）・24 日（金），本総合教育センターを会場に，「平成 20 年度全国適応指導教室連絡協議会第 14 回四国・九州地域会議「沖縄大会」が開催されました。この連絡協議会は全国の適応指導教室（教育支援センター）等の相互の連携を密にするとともに，相談・指導方法，組織・運営のあり方等に関する調査研究，研究協議会の開催等を行うことにより，適応指導教室等の指導内容・方法の充実を図り，不登校問題の解決に寄与することを目的に，開催されています。

今回は四国・九州地区から適応指導教室関係者，不登校支援に携わる教育センター主事等 32 名及び県内関係者延べ 240 名の参加がありました。

初日は大分県，福岡県，本県うるま市適応指導教室の実践発表，沖縄県立芸術大学新里健教授による「ソーシャルスキル・トレーニング」，NPO 法人「ヨナグニウマふれあい広場」代表久野雅照氏による「動物介在体験活動」のワークショップ等を実施しました。ヨナグニウマの乗馬体験では，動物に触れあうことの子供達に与える癒しや自己肯定感向上の効果を体験してもらいました。

2 日目には「適応指導教室の現状と課題」と題し，新里里春先生（琉球大学副学長）に基調講演をしていただきました。また大会 2 日前に沖縄県

適応指導教室連絡協議会で実施した「活動展示報告会」での各適応指導教室の活動内容の展示見学も，基調講演前行いました。更に「てるしの」通級生徒とセンター主事による「サンライズバンド」の演奏も，たくさんの来場者の前で披露し，生徒達にとって素晴らしい経験，自信に繋がりました。

「先生方が子ども達と一緒に楽しんで演奏を盛り上げている姿に感動しました」「子ども達の一生懸命な姿，沖縄の先生方の暖かさを感じられた素晴らしい大会でした」と多くお褒めの言葉をいただき，無事 2 日間の日程を終了しました。

次年度大会は大分県で開催されます。本大会に関わっていただいた多くの関係者に感謝申し上げます。



乗馬体験

後期特別講演

「人づくりの種をまく 元気 感動 夢舞台」
脚本家 演出家 平田大一氏



講師の平田大一氏ががてがけた「肝高の阿麻和利」は公演回数 120 回以上，観客数も 8 万人を超え，県内のみならず海外まで多くの人に夢と希望を与えています。センターでの講演会もまさに会場は「元気・感動・夢舞台」でした。和やかな雰囲気の中にも講師の言葉を一つも聞きもらすまいと集中する先生方。笑いと涙と感動が皆を勇気づけ力を与えてくれたようです。研修員の感想からも「一生懸命取り組むことや大人でもチャレンジし続けるという気持ちに特に共感した。」「涙を流すほどの感動体験の大切さと一生懸命をばかにしない雰囲気作りも今の子どもたちにはもちろん，我々大人にとっても重要なことだと思った。」「『あ

りがとう』と言える時に，子どもは成長するという言葉が強く心に残った。」「子どもと向き合うときの情熱や一人の大人として，これから自分がどのような姿勢でいくか，道しるべを教えてもらった。」など，心の奥底からわき出てくるような感想が多数寄せられました。

情熱と子どもたちの可能性を信じ，それを引き出していく平田氏の手法が私たちに大きな示唆を与えてくれました。そしてまた，私たち自身にも自らの可能性を感じ，大切なものを思い出させてくれる素晴らしい講演でした。

県立教職 10 年経験者研修 ～ライフステージに応じた研修へ～

総合教育センターでは、教職経験者研修として、初任研・5 年研・10 年研・15 年研を実施しています。とりわけ初任研と 10 年研は、法律により定められた教職員研修として実施しています。

10 年経験者研修制度は、平成 14 年「教育公務員特例法の一部を改正する法律」の公布を受け、平成 15 年 4 月 1 日より施行されています。当センターでも校外における研修として 17 日間を夏季休業期間中に実施してきました。本格実施 6 年を終え、新たなライフ・ステージに応じた研修の実施に向け取り組んでいます。

平成 20 年度に実施した県立教職 10 年経験者研修の概要は以下のとおりです。

①開講式

10 年研修の趣旨と意義を理解していただくと共に、研修が円滑に効果的に実施できるよう周知徹底を図る意味から、7 月下旬の本格校外研修実施の前に 5 月に開講式を実施いたしました。

②美ら島 E-net の利用

今年度より I T 教育班の協力で、離島地区の

10 年研対象の教諭は美ら島 E-net を利用して開講式から同時に研修に参加することができるようになりました。

③選択研修

7 月から 10 月までに、5 日間の個々の能力・適正に応じた研修を課しています。10 年研対象者は、施設や企業等を選び、教育課題の解決や授業実践など、教員としての実践的指導力の向上につながることをねらいとした研修を行いました。

④授業研究会の開催

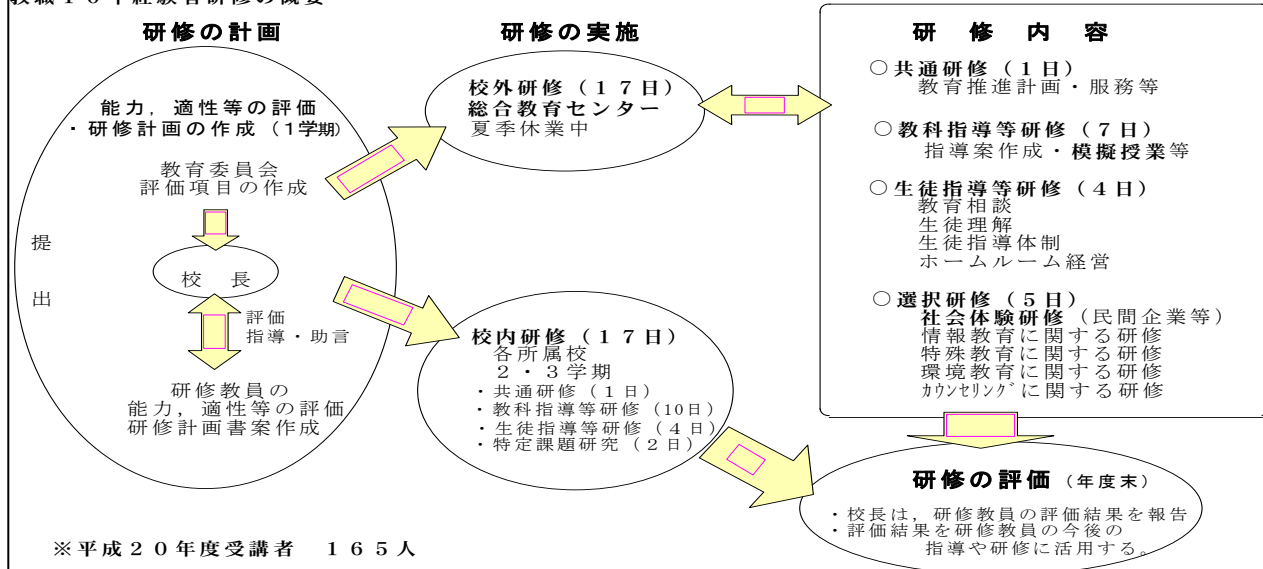
教科に関する授業研究会を各教科の代表者による研究授業会後に実施しています。実践的指導力の向上をねらいとし、当センターの主事も研究授業を参観してもらい、研究会において指導助言もお願いしています。

以上、平成 20 年度教職経験 10 年者研修について振り返ってきました。次年度以降、教員免許更新制（平成 21 年 4 月）の導入と共に本研修のプログラムを見直し、より一層、充実させていきたいと考えております。

教職 10 年経験者研修（県立高等学校）

趣旨： 教育公務員特例法の一部を改正する法律（平成 14 年法律第 63 号）の試行に伴い、教職 10 年目の経験を有するすべての教諭等を対象に、個々の能力、適性等に応じて教諭等としての必要な事項に関する研修を行い、教科指導、生徒指導等に関する指導力の向上を図る。

教職 10 年経験者研修の概要



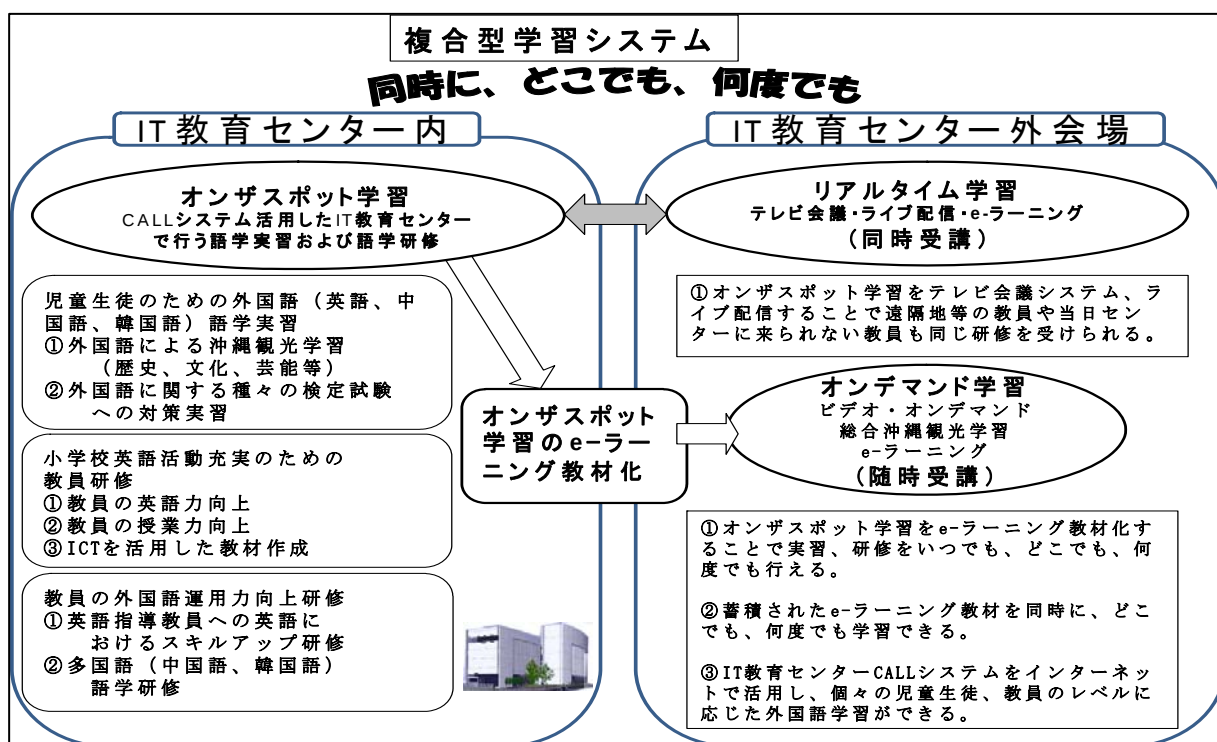
ICTを活用した小学校外国語活動講座

IT教育センターでは平成23年度から必修になる小学校外国語活動を円滑にスタートさせるために、担当教員の英語力向上、教材開発及び指導力の向上を図る「ICTを活用した小学校外国語活動講座」を実施します。平成21年度から年間500名、3年間で約1,500名の小学校外国語活動担当予定教諭が受講する予定です。講座は主にライブ配信、テレビ会議システムおよびeラーニングを活用して行います。講座の概要を図で示すと以下ようになります。



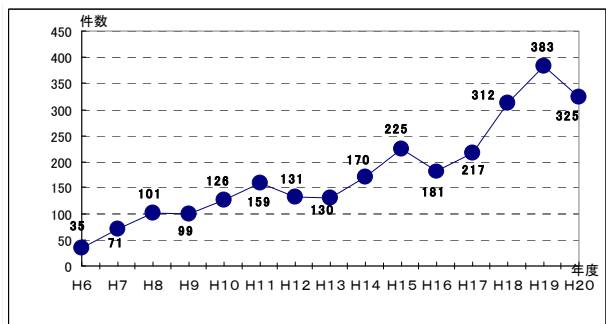
沖縄グローバル エデュケーション ネットワーク システム

沖縄グローバルエデュケーションネットワークシステムが平成21年度から稼働します。このシステムの主な機能である「複合型学習」を活用して「ICTを活用した小学校外国語活動講座」を始め、児童生徒のための外国語（英語、中国語、韓国語）実習や教員の外国語運用力向上のための研修を行います。また、従来の教育情報共有システムの検索機能を大幅に改善することで、必要なコンテンツの検索が簡単にできるようになりました。ICTを活用して「同時に、どこでも、何度でも」研修が行える新しいスタイルの研修、「複合型学習」の特長は以下のとおりです。



障害児来所教育相談事業

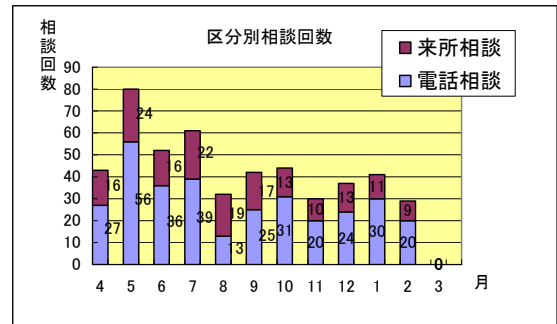
特別支援教育班では、障害のあるお子さんの養育・教育に関する保護者やその関係者からの相談に対応しています。この障害児来所教育相談が、ここ数年、増加し続けていましたが、昨年度の383件に比較し、今年度は2月末現在325件と減少しました。その内訳を今年度の区分別相談回数で見ますと、来所相談回数が減少し、電話相談回数が増加しています。これは、これまで本センターが取り組んだ特別支援教育に関する様々な研修や各学校における支援体制づくりの成果と考えます。



年度別来所相談件数の推移 ※H20は2月末現在

各学校において、特別支援教育コーディネーターを中心に相談体制が整備されてきており、電話での指導助言による対応で解決の糸口を得て、学校独自で取り組むようになっていないかと推察しています。

そこで、本班では、「障害児来所教育相談」のあり方を検討し、相談の進め方を明確にしました。本センターHP上の障害児来所教育相談の内容を一部紹介します。



平成20年度月別来所相談回数

障害児来所教育相談のながれ

学校からの教育相談は、特別支援教育コーディネーターを窓口として電話での受け付けをいたします。その際、校内での支援レベル(取組内容)と具体的な支援内容についての確認をいたします。(相談前に別紙「来所相談資料」に記入し提出してください。)

発達心理検査の実施は、その相談ケースの必要性に応じて実施いたします。未就学児のご相談は直接保護者や関係者からの相談を受け付けます。

(様式1)

※日程調整の際、相談員より通知された番号をご記入下さい。

資料受付日(月 日)

◆注意◆
プライバシー保護のため
太枠内は記入しないで下さい

来所相談資料 No.

対象者名	保護者名	印
学校名	年	記録者名
【相談主訴】		
【子どもの様子】		

相談のながれ

- ① 電話受付 (Tel : 098-933-7526)
- ② 日程調整
※相談員より、受付番号をお知らせします
- ③ 来所相談資料提出
※未就学児の場合、提出の必要はありません
- ④ 来所相談(面談)
※電話相談のみも受付けております。

曜日ごとの相談可能な時間

曜日	月	火	水	木	金
午前の時間 9:30 ~ 11:30	×	○	○	○	○
午後の時間 14:00 ~ 17:00	×	○	×	○	○

◆お問い合わせ先 TEL : 098-933-7526
FAX : 098-933-7528
沖縄県立総合教育センター 特別支援教育班
※本センターは教育機関なので、診断は行って
おりません

産業技術先端機器の紹介

産業教育班では、産業教育に係る生徒実習を実施しており、本年度は農工商の専門高校の生徒 6, 142 名 (H21. 2. 28 現在) の実習を行いました。今後の研修・実習の充実を図るため、第二次整備計画の一環として導入された新システムの紹介をします。

■データベース学習システム

情報通信社会では多くの情報（データ）が氾濫しています。この多くのデータをデータベース化することで必要とするデータを瞬時に得ることができ、有益な情報を収集・発信することが可能となります。このようにデータを整理・加工し、有効に活用するのがデータベース技術力です。

専門高校におけるデータベース教育は入門的な段階に留まっているのが現状です。そこで本学習システムを活用することでデータベースのスキルアップを図り、産業界でも通用するデータベース技術者の育成につながることが期待できます。

システムの内容は産業技術教育センターに設置した e-learning サーバから、データベースの基礎と Web プログラミング (Java) のコンテンツを離島含めた県内専門高校に配信し、データベースの基礎が学習できる環境になっています。また、オラクルデータベースのソフトが使用できる環境が整っており、Web アプリケーションの開発の基礎から応用までの実機演習が可能です。

本システムの有効活用と専門高校の教職員のデータベース技術の向上を図るため、専門高校の教職員を対象に「データベース技術講座」を開催致しました。学校現場から多くの先生方の参加があり、充実した内容の研修でした。

1. Web システム構築講座 (4 日間)
2. データベース SQL 基礎 (3 日間)
3. データベース管理 (2 日間)

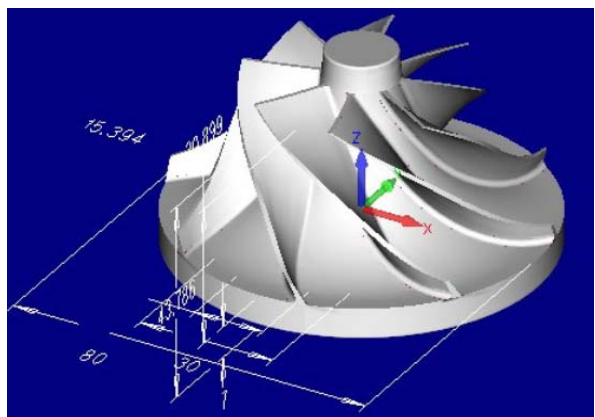


■精密加工機システム

金型加工は、ものづくり大国・日本が世界に誇る技術です。1 ミクロン (1/1000 ミリ) 単位の精度が高い金型を製作するには、精密加工が可能な加工機と加工精度を確認する測定器等が必要になります。

CAD とは (Computer Aided Design) の略語で、これまで人の手によって行われていた設計作業をコンピュータを用いて設計をすることです。また、CAM とは (Computer Aided Manufacturing) の略語で、CAD で作成された図形データを、NC 工作機械加工用の NC プログラムの作成など生産準備全般をコンピュータ上で行うためのシステムであり、出力されたデータは、NC 工作機械に送られて実際の加工が行われます。

「精密加工機システム」では、3 次元 CAD / CAM により、立体形状を作図し、作図した形状を 2 次元面図に自動的に製図したり、部品の一部を変更することで組み立てたときの「干渉チェック」や、製品の重量・重心・容積などを自動的に計算する機能を持っています。CAD で作成されたデータを加工プログラムとして、工作機械に転送して製品の加工を行います。今回導入された精密加工機 (5 軸同時加工) は、エンペラなどの複雑な形状の加工が可能で、しかも、高精度で高速加工ができるため、先端的加工技術の指導に多大な効果をもたらすものと期待しています。



研修を振り返って



教科研修班

恩納村立安富祖小学校教諭
安座間 直 樹

長期研修では、多くの指導主事のご指導や校種間を越えた研修員との交流の中で、自分自身の実践を振り返り、教師としての在り方・人としての生き方を学ぶ充実かつ貴重な研修生活を送ることができました。本研修で学んだことを生かし、やる気・元気・笑顔・夢・愛に満ちあふれたキラキラ輝く子どもたちをはぐくんでいきたいと思います。



教育経営研修班

沖縄市立北美小学校教諭
島 袋 孝 治

日常生活の中において道徳は基本的に必要なものであり、心の教育が今日的な課題だと捉えています。総合教育センターでの半年間の道徳教育の研修は、道徳の重要性や子どもの捉え方を見直すいい機会となりました。ともに研修を深め合った研修員同士の情報交換や、主事の先生方から受ける情報は得るものが多大であったと感じています。この研修で得た貴重な経験を生かして、今後の授業実践に役立てていきたいと思っています。



特別支援教育班

県立大平養護学校教諭
陳 真 弓

半年間の研修を振り返ると毎日、毎日が新鮮で楽しい研修生活でした。同じ志を持った仲間に出会えたこと、現場を離れて研修に集中できたこと、周りの力に支えられてとても貴重な時間でした。班長をはじめ、素晴らしい指導主事の先生方に丁寧なご指導、励ましを頂き感謝申しあげます。ありがとうございました。今後も、子ども主体の教育観をもとに教育実践の充実を図っていききたいと思います。



理科教育班

糸満市立潮平中学校教諭
玉 寄 兼 明

4月、志を高く自信を持って研修をスタートしましたが、各種講座や関係する主事の話が理解できず勉強不足を痛感しました。また、研究に対する様々な指摘に自分の考えをうまく伝えられず、不安になることもありました。しかし、課題を素直に受け止め、解決の方策を探り目標を達成できたことは、自らを成長させる貴重な経験と大きな自信になりました。担当主事をはじめ多くの所員の方々や仲間感謝すると共に、今後は学校現場への還元と指導力向上に努めていきたいと思っています。



産業教育班

県立中部農林高等学校教諭
太 田 純

産業教育班では、各専門高校の職員が研修しており、領域を超えての知識・技術等の情報の交換など、視野を広げることができました。個人研究では、個人のスキルアップや試行錯誤を繰り返しながら研究の成果を形にすることができ確かな手ごたえを感じました。研修で得た多くのことを、学校現場で活かし、生徒の自信に繋がるようにしていきたいと思っています。



I T 教育班

県立鏡が丘養護学校教諭
金 城 智 也

一年間の研修はとても短く感じられ、充実した日々を過ごすことができました。IT研修室には、小・中・高・特別支援学校の様々な校種から教師が集まり、熱い教育論をぶつけ合ってきました。そのおかげで、ICTを活用した授業実践力だけでなく、教師としての視野を広げることができました。時に厳しく、時に優しく指導して下さった所員のみなさんをはじめ、多くのスタッフの方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、研修で得た成果を児童生徒、学校現場、地域の方々に還元できるよう、教育実践に取り組むつもりです。ありがとうございました。